



特別対談

「食と健康」で共に高みへー12年間の絆が描く、ウェルネスな未来へ

キューピーグループと鈴木健吾選手。

12年前の共同研究に遡る「縁」と信頼の積み重ねが、両者の新たなステージへの挑戦を機に、パートナーシップという形へと結実しました。

2025-2028年度中期経営計画を推進し、自ら変革を加速させていく当社グループと、プロとして新たな環境に身を置く道を選んだ鈴木選手、それぞれのChange & Challenge。

互いに共鳴するこの強い意志を原動力に、

「栄養・運動・社会との関わり」を通じて

「ウェルネス」な未来を切り拓き、

「食と健康」の価値を社会へと広げていきます。



鈴木健吾

プロランナー
 1995年生まれ、愛媛県出身。神奈川大学卒。
 2021年に当時の日本記録を樹立。2025年10月よりプロ転向。



高宮 満

キューピー株式会社
 代表取締役 社長執行役員

「縁」は12年前の共同研究から始まった

高宮 鈴木さんとの出会いは、私が研究所員だった頃の「食と健康」に関する共同研究でした。あれから12年、今こうして「Change & Challenge」を掲げる同

志として再会できたことに、深い必然性を感じています。当時は、卵白の良質なたんぱく質がアスリートのコンディション管理にどう貢献できるか、データを模索していました。その一環で、鈴木さんが所属されていた神奈川大学駅伝部とのお縁をいただいたのです。



鈴木 よく覚えています。入学したばかりの1年生だったのに、キューピーグループの幹部の方々が集まる席に呼ばれて挨拶をさせていただきました。あれが今に続く長い付き合いの第一歩になるなんて、当時は想像もつきませんでした。

高宮 試作品を飲んでいただき、なんとか選手の皆さんに貢献したい。当時の私はその想いでいっぱいでした。その後、鈴木さんが大学3年生の時に箱根駅伝の「花の2区」で区間賞を獲得したあの激走は、今でも鮮明に覚えています。理屈抜きに、ご縁のある方が活躍し、スターになっていく姿にただただワクワクしました。

鈴木 1年生の時からずっと背中を押していただいているという感覚が私にはあります。大きな大会で結果を残せたことで、皆さんの期待に応えられたのであればうれしいですね。

高宮 自分たちの想いを重ねて、心から誰かを応援する。その時、「選手と私たちが一体となっている」という感覚を、私自身が強烈な実体験として得たのです。こうした一体感は、働く私たちの活力を引き出し、会社を内側から変えていく大きな力になる。それをグループ全体で分かち合い、共に高みをめざす原動力にしたい。そんな想いが、ずっと私の中にありました。

変わり続ける。 進化を止めないために

鈴木 私は2028年の国際大会に向け、マラソン一本に集中できる環境を作りたいと考え、独立を決めました。一度きりの競技人生、立ち止まったまま後悔することだけはしたくない。その一心で、あえて厳しい環境に身を置く道を選びました。この決断にあたって、パートナーとして真っ先に頭に浮かんだのは、学生時代から特別な思いがあったキューピーグループでした。

高宮 鈴木さんの大きな決断を聞いて、その勇気に私はとても感動しました。当社グループも今、「Change & Challenge」を合言葉に、さらなる成長を求めてビジネスモデルをアップデートしています。国内中心からグローバルへ、人の手からAIやロボットを活用した自動化へ。変化を恐れず、より良い環境を自ら選んで変わろうとする鈴木さんの姿勢は、まさに今の当社グループの姿と重なります。それが今回の契約の決め手になりました。

鈴木 常に自分をアップデートし続けることが、さらに上をめざす上では不可欠だと意識しています。納得のいくレースは実は数えるほどしかありませんが、たとえ成功したレースであっても、反省点を見極めて試行錯誤を継続していく。それが今の自分につ



ながっています。

高宮 進化を止めないために、原因を見極めて調整を繰り返していく。その想いと姿勢は、まさに当社グループがめざすものです。経営者として私の役割は、「これまでのやり方を変えてもよいのだ」と従業員に感じてもらい、新たなことに挑み続けられる心理的安全性を備えた組織風土を築くことだと思っています。

「ウェルネス」の実現に向けて

鈴木 アスリートにとっては「トレーニング」「睡眠」「食事」が三位一体で重要です。日頃から栄養 balan

価値創造プロセス | 「理念でつながる多様な人材の現場力」と「社会に信頼されるブランド力」を磨き上げる | 2025-2028年度中期経営計画の進捗
財務戦略 | サステナビリティマネジメント | 人材戦略 | **特別対談：「食と健康」で共に高みへー12年間の絆が描く、ウェルネスな未来へ**



スを意識していますが、食事だけで補いきれない部分をキューピーのサプリメントなどで補っています。以前、股関節のけがに悩んでいた時期に、当時の三宅社長が「みんなが応援しているよ」というメッセージとともに商品を届けてくださいました。

高宮 お役に立てていたなら何よりです。

鈴木 アンチ・ドーピングについても、皆さんはすぐに専門の機構にまで掛け合って安全性を確認してくださいました。ただ商品を送るだけでなく、そこまで踏み込んで寄り添ってくださる誠実なサポートに、本当に救われました。

高宮 私たちが注力している「ウェルネス」は、食品提供を通じて健康寿命延伸に貢献し、社会全体の幸福度を高めることです。鈴木さんがおっしゃった三位一体は、私たちが提唱するウェルネスの3要素である「栄養・運動・社会との関わり」にも通じています。鈴木さんの高い意識は、私たちにとっても大きな刺激であり、大切な学びとなります。

鈴木 今回の契約を発信した際、多くの方から「キューピーはとても良い会社だよね」と言われました。一緒にお仕事をされたことがある方からは「社員の皆さんも良い方ばかりでうらやましい」とも。こうした反響を聞くたびに私自身もうれしく、誇らしい気持ちになりました。キューピーの口

ゴを胸につけて走れるのは、本当に光栄なことです。

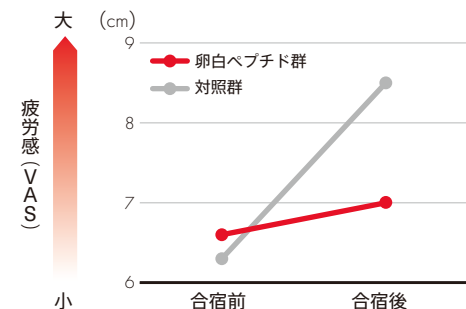
高宮 鈴木さんのその言葉は、グループで働くすべての社員にとっても大きな誇りであり、勇気になります。鈴木さんの挑戦を共に歩む中で、あらためて「食の持つ力」を確信し、その価値をより多くの方々の健康な暮らしに役立てていきたい。鈴木さんが思う存分力を発揮しているときも、思うようにいかないときも、私たちは「食」を通じて伴走し続けます。

鈴木 独立してプロとして歩み出した今、一つひとつの決断に対して「後悔しない選択」を積み重ね、食とスポーツをつなぎながら社会全体の健康に貢献していきたいですね。

高宮 これからもお互い高め合いながら、ウェルネスな未来に向けて一緒に走り続けていきましょう。

TOPICS 卵白ペプチドによるアスリートへの貢献

2017年の日本疲労学会等で発表された神奈川大学との共同研究は、鈴木選手と共に「卵白ペプチド」がアスリートの疲労を抑制し、コンディション維持に役立つことを証明しました。日々の疲労を持ち越さず練習を積み重ねるためのこの成果は、今も鈴木選手の挑戦を支える重要な根拠です。トップアスリートの支援で培ったこの価値を、今後はスポーツ愛好者をはじめ、より多くの人々の健康を支える力へと広げていきます。



出典：第10回国際ストレングストレーニング学会大会